

大量の沢水が流入し星野川が増水。道路の土がえぐられ、 通行不能になった町道横打馬場線(8日午後2時=横打)



土砂で水路が封鎖され、あふれ出た水は農地をまっすぐ下り、正面の江刈保育園へ(8日午後4時=今待)



沢が増水し、小屋は流れの中へ (7日午後4時=高家領)

十五戸

の馬淵川沿いの世帯が避難勧 五分には田代から坂待屋まで

災害の様子



周囲に土のうを6段積み上げ、 床上浸水を免れた住宅(8日午 後4時=寺田)

ち荒沢口線、

打田内線など五

路線が通行不能です



家と家との間を水が走り、土台を の土がえぐられ建物の擁壁が崩落 (8日午前10時=元町)

被害総額 は害 30は 億42 円棟

水七棟、 ない路線は、茶屋場岩瀬張線、 路面決壊により現在通行でき になって 部破損が一棟のほか、 めた被害状況は、 町道の被害は十 林道は七路線で、 内袖山線など六路線で 床下浸水が三十四棟か一棟のほか、床上浸 います。 八路線で、 住家の一 現在でま そのう

などの浸水八件、橋の流失一件 ■商工関係…工場建物や製品 〔そのほかの被害状況〕

カ所、県道二カ所、 ■公共土木施設被害…国道二 ■林業関係… ■農地農業用施設… (田七・四鈴、 · 畑 五・ 河川 十二・九 五鈴 一カ

水道施設…九施設十六カ所

(七十四カ所)

■農作物等…六三・七鈴、 上浸水二棟、 農業施設…一 床下浸水九棟 部決壊一棟

所で眠れぬ一夜を過ごしま 六カ所で三百五十八世帯、 告を受けています 勧告の対象は、 八人。そのうち、 二百二十 町内八 七人が避難 九十 地区 九

後七時には最大の二・二三景 に達しました。

■農業集落排水施設… 二カ所

施

三十億円を超えるものと見込 -億円、 これらの被害総額は、 町十億円で合わせて 県二

8初地の 地区358世帯の避難勧告発令

まれています

それぞれの地区セン 地区の元町川 最大の被災地とな 1が発令 され 初 沿 ま

さらに、 令され、 日市地区の一部、 元町川沿いの茶屋場地区と四 集落が江刈農村センタ ターに避難しました。 と元町の一部五十二世帯に発 午後二時には、 最初の避難勧告は七日午 午後四時四十五分、 江刈の今待 午後六時十

〔3〕 平成18年11月1日・広報くずまき 広報くずまき・平成18年11月1日 [2]

後四時、

打田子橋の観測地点

超えました。

降り始める前の

水位はわず

でとうとう警戒水位の二㍍を

増水。

馬淵川の水位は七日午

馬淵川、

星野川などの河川が

降り続けた雨で、 替えられました。

元町川や

警戒本部は災害対策本部に切

水対策に追われ、

午前七時、

の撤去作業、

住家などへの浸

められています。 さまざまな光景を目にしました。 消防団などの懸命な活動や住民が自主的に協力する姿など 町で初めて避難勧告が発令されました。降りしきる雨の中、 域の被害調査を行うとともに、住民の安全確保を重視 ました。七日午前七時、 暴風と記録的な大雨で、 今回の教訓を生かした取り組みが今、 町は災害対策本部を設置し、町全本町はかつてない災害に見舞われ)組みが今、町や地域に求災害に強い町づくりに向 と記録を更新しています 表されたのは、六日午後八盛岡地区に大雨洪水警報が

十月六日から七日にかけ、

発達した低気圧の影響による

11位の383点の降水量は観測

裏の葛巻観測所も、 県北部と沿岸部を中心に降 六日午前一時から八日二 観測史上一位を記録 昭和五十 平庭周辺の沢 した。 一年の設 役場 本町

道や町道などへの倒木、

土砂

七日未明から朝にかけて国

えました。

の見回りなど災害の発生に備

警戒本部を設置し、

町内全域

午後八時四十五分に災害

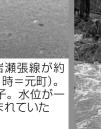
時三十二分。 発表されたのは、

町は、

これを受

置以来、 気象庁の袖山観測所の降水量 する大雨となりま 十四時までの七十二時間で三 や川の影響を受ける地域に大 では特に袖山、 八三ッと、 きな被害をもたらしました。 り続いた今回の大雨は、

元町川が増水し、町道茶屋場岩瀬張線が約200〜にわたり決壊(7日午後1時=元町)。 写真衛は、同じ場所の翌日の様子。水位が一気に下がり、稲はせは濁流にのまれていた



30億円を超える大雨被害

